

(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は緩やかに増加している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

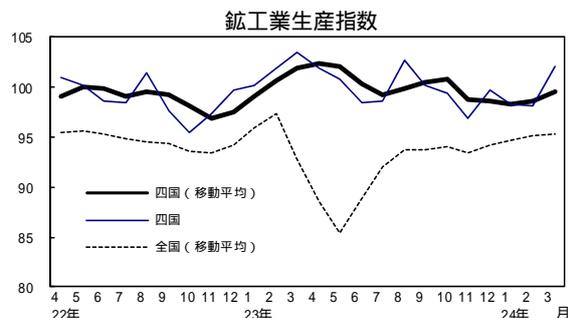
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 24 年 2 月)	今回 (平成 24 年 5 月)	
景況判断	弱含み	持ち直し	
鉱工業生産	弱含み	持ち直しの動き	
個人消費	おおむね横ばい	緩やかに増加	
住宅建設	減少	大幅に増加	
雇用情勢	持ち直しの動きに一服感	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

化学は、足元ではメタクリル樹脂で定期修理に向けた在庫積み増しの動きがみられるものの、1月の医薬品の生産減等が寄与し、減少している。電気機械は、蓄電池がパソコン向けで需要が低調であったこと等から減少している。食料品は、冷凍調理食品が在庫調整の進んだことにより増産されたこと等により増加している。パルプ・紙は、在庫調整と四国管外の他工場との生産量の調整により包装用紙が減産されたこと等により減少している。一般機械は、一部で東日本大震災の復興需要がみられたものの、化学機械・貯蔵槽が低調であったこと等から減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
化学	17.1	4.8	1.9	0.4	7.0
電気機械	15.4	1.2	0.9	4.3	0.0
食料品	13.6	0.8	4.5	1.1	8.8
パルプ・紙	11.8	2.3	1.2	3.3	6.3
一般機械	8.9	8.3	1.7	1.8	17.0
鉱工業	100.0	1.9	0.9	2.0	0.2

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1~3月期は速報値。

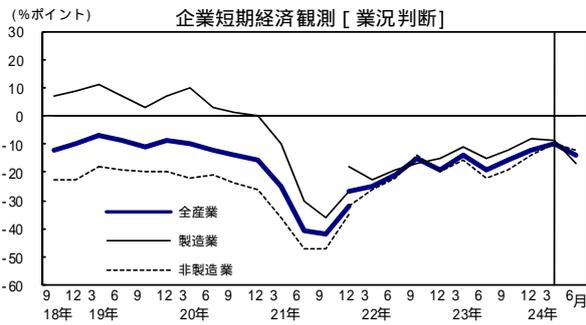
3. 電気機械には、情報通信機械、電子部品・デバイスを含む。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

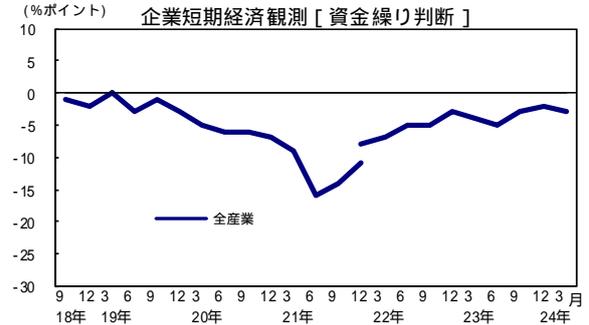
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

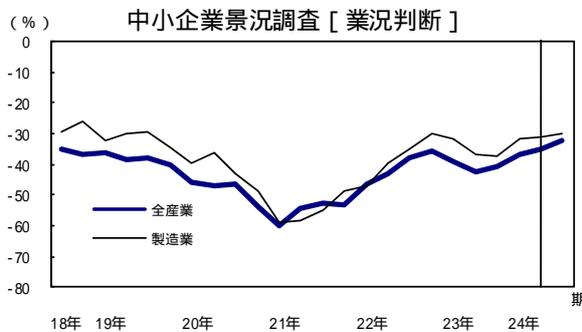
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。24年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。24年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

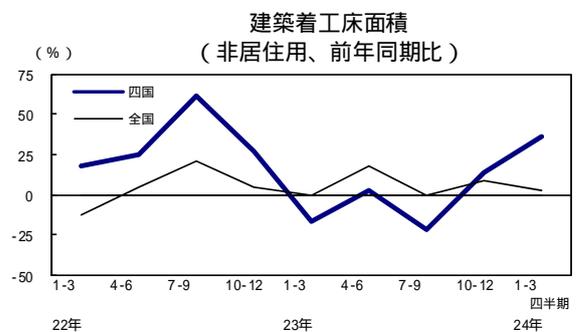
「新商品を発売しても、予想していたほど受注量が伸びない(パルプ・紙・紙加工品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 23年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	23年度実績見込み	24年度計画
全産業	17.7(3.5)	6.5
製造業	15.2(6.6)	13.1
非製造業	21.3(1.1)	2.7

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は緩やかに増加している。

大型小売店販売額

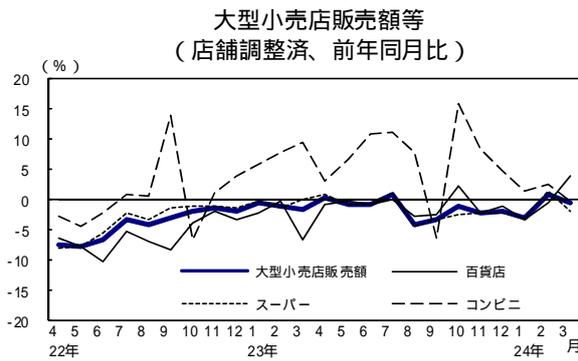
大型小売店販売額は、前年同期比で1.0%減、前期比で0.2%増となった。

百貨店は、1月は冬物セールが低調で、月下旬の気温低下の影響から来客数が減少し、前年を下回った。2月は引き続き気温が低く、来客数に影響がみられたほか、春物商材の動きも依然として鈍かったことから、前年を下回った。3月は前年の東日本大震災による影響の反動のほか、催事効果や宝石等の高額品の一部に動きがみられ、前年を上回った。

スーパーは、低気温により鍋物商材等の飲食料品が好調であったものの、前年の家電エコポイント制度変更に伴う駆け込み需要の反動が依然としてみられたことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「春休みが終わり、4月中旬以降の来店客数は減少した。販売量は計画をやや下回る状況で推移している。スマートフォンに興味を持つ消費者は多いが、廉価な機種を購入される場合が多い(通信会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月
大型小売店(*1)	0.4	2.0	1.8	1.0
百貨店(*1)	0.6	1.5	0.5	0.2
スーパー(*1)	0.3	2.2	2.3	1.3
大型小売店(*2)	1.1	0.7	0.5	0.9
(季節調整値)(*3)	(0.4)	(0.6)	(0.3)	(0.2)
乗用車(*4)	38.9	24.7	20.5	51.9
(季節調整値)(*4)	(14.1)	(30.9)	(6.8)	(23.3)

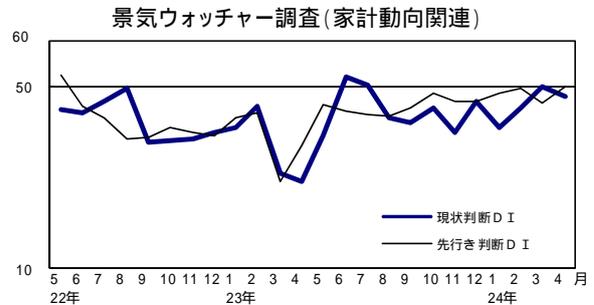
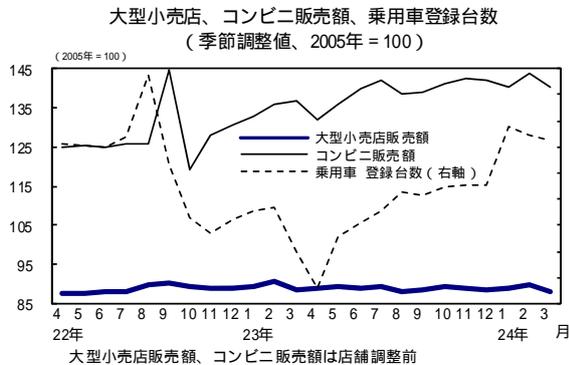
(備考) 1. 店舗調整済、前年同期比(%)

2. 店舗調整前、前年同期比(%)

3. 店舗調整前、前期比(%)

4. 乗用車は新規登録・届出台数

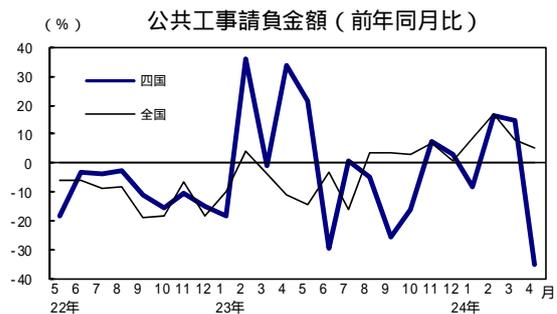
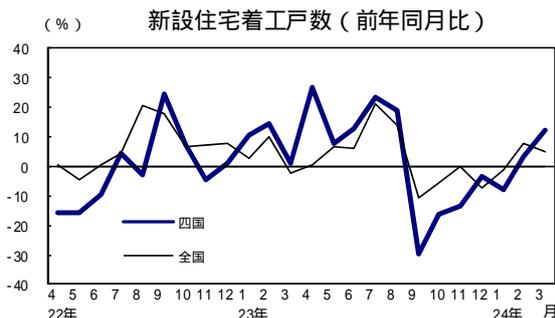
(上段：前年同期比、下段：前期比、%)



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は23年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

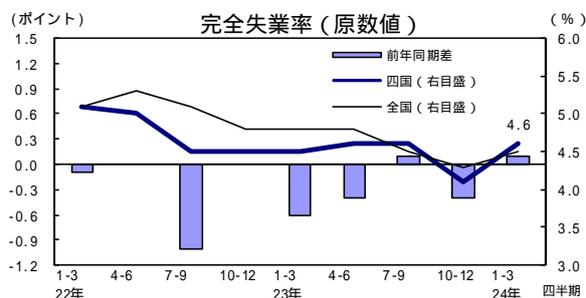
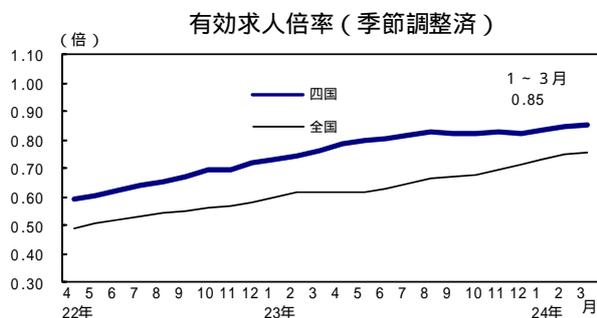


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期とほぼ同水準となっている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

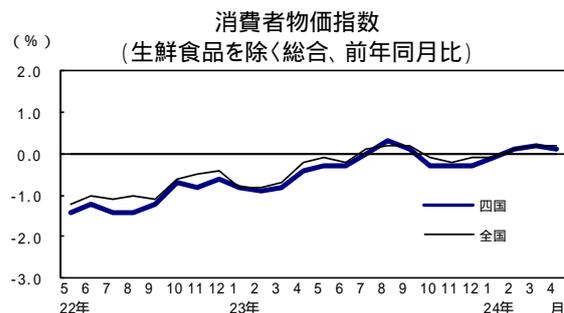
「4月に入り、求人数は増加しているが、欠員を補充するため、従業員を増やすという理由で採用している企業は少ない。医療・介護の分野では、人手不足感がある（民間職業紹介機関）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数はおおむね横ばい、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は上昇に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	23年4-6月	7-9月	10-12月	24年1-3月	24年4月
倒産件数	55	80	58	72	21
(前年比)	41.5	1.2	10.8	0.0	31.3
負債総額	158	250	120	141	44
(前年比)	17.5	13.5	19.9	13.2	51.5



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・医療機器が欧州向けを中心に回復傾向にあり、受注が予想を上回っている（電気機械器具製造業）

<先行き>

- ・4月中旬に大型商業施設がオープンしたことに伴い、近隣の店舗では改装やテナントの入替えをするなど、より魅力のある商業集積へと変化していることから先行きはやや良くなる（商店街）

